

(表3-9-5-4) 排せ誘導拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターンと解決方法の関連

区分	code	解決方法	情報の組み合わせパターン																					
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	パターン18	パターン17	パターン18	パターン19	パターン20		
誘導時間	101	誘導パターンに同じ	157	140	110	106	92	90	80	84	54	55	54	51	49	49	44	42	42	42	18	18	5	
	102	定時声かけ	121	04	1.1	35.1	2.1	3.0	40.6	1.4	6.5	1.6	34.8	5.4	3.6	59.3	9.5	27.4	8.1	30.2	3.9	2.1	0.2	
	誘導の工夫	201	本人の行動・状態に反応して	7.8	2.1	1.8	41.7	1.9	5.9	12.5	0.3	1.4	18.2	1.8	5.7	6.0	20.6	2.6	14.9	3.9	2.1	2.1	2.1	0.3
		202	トイレ以外の理由で誘導	10.1	7.0	5.4	4.2	11.5	19.7	15.3	5.0	7.9	23.8	14.7	8.0	7.9	2.2	10.1	13.3	14.0	10.6	8.6	8.6	19.6
		203	歩調をしながら	2.2	1.1	3.2	0.1	2.5	0.1	0.1	0.2	2.5	0.4	0.4	4.0	1.9	19.0	0.0	2.3	2.5	1.3	7.2	7.2	0.3
		204	他者と一緒に	8.4	12.5	11.1	10.2	1.9	3.2	16.8	1.6	9.3	9.6	6.4	23.6	1.0	13.7	0.0	5.2	5.9	6.3	1.2	1.2	0.1
		205	職員と一緒に	2.9	1.9	3.3	9.0	4.5	2.9	5.0	0.4	1.3	2.7	0.0	1.7	3.9	5.4	0.0	3.0	0.1	0.6	0.2	0.9	0.0
		206	慣れた言葉	2.3	1.8	3.0	4.8	1.1	3.4	0.8	0.1	5.1	0.2	1.8	1.2	3.9	0.8	4.1	0.2	2.6	5.0	1.2	0.1	0.0
		207	本人だけに	1.8	0.0	0.5	0.6	1.1	2.1	0.3	0.1	4.0	7.5	0.0	1.2	1.6	4.1	0.6	7.1	0.1	0.3	0.4	0.5	0.1
		208	トイレという言葉を使わない	5.3	3.2	9.3	13.4	10.0	0.8	1.0	9.2	4.2	8.6	0.7	5.2	4.8	0.0	0.1	4.9	0.6	7.8	1.4	0.0	0.0
		209	移動時	6.6	1.1	7.8	11.1	4.8	1.8	4.8	0.2	7.0	2.2	10.1	2.8	6.8	23.5	0.0	17.2	5.2	1.7	8.8	0.0	0.1
		210	説明と納得	8.7	17.7	11.7	9.9	2.8	5.3	8.0	2.2	13.4	6.8	7.6	4.4	8.3	2.1	3.3	14.3	13.1	7.0	3.1	0.0	0.0
	介助の工夫	301	声かけ	0.6	0.4	0.5	0.0	1.2	0.0	0.0	0.3	1.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	1.5	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0
		302	声かけ	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		303	声かけ	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		304	声かけ	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		305	声かけ	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		306	声かけ	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		307	声かけ	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		308	声かけ	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
コミュニケーション	401	言葉	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	402	言葉	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	403	言葉	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	404	言葉	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	405	言葉	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	406	言葉	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	407	言葉	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	408	言葉	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	409	言葉	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	410	言葉	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他	501	言葉	7.5	8.7	12.0	5.8	9.4	14.5	5.7	13.2	9.7	6.6	9.9	9.7	13.0	0.0	2.0	7.7	7.7	6.0	3.4	3.4	0.2	
	502	言葉	1.1	0.9	0.7	0.4	0.1	0.0	2.3	0.8	2.1	1.9	0.0	0.0	4.7	3.8	2.0	0.1	0.1	0.6	1.2	1.2	0.0	
	503	言葉	0.9	3.0	0.2	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	4.9	0.0	0.1	0.6	0.4	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.3	0.0	
	504	言葉	3.3	7.2	1.5	2.4	0.2	4.7	0.0	3.4	4.3	9.0	5.9	0.1	1.7	2.5	4.0	2.0	2.0	0.1	0.1	3.8	19.8	
	505	言葉	3.1	6.7	3.6	3.8	0.0	3.6	3.3	0.2	7.1	6.0	0.4	1.1	1.5	2.0	0.0	1.6	0.4	3.3	0.2	0.2	0.0	
	506	言葉	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	1.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	507	言葉	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	508	言葉	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

(注) 滞在クラス所属履歴による集計

(表3-9-6-1) 絶対にやってはいけない対応

	有効回答数	尿意や便意のサインを無視し放っておく	失敗をしかる	衣類等の汚れを見ぬふりして交換しない	自力でトイレに行ったとき、そのまま見過ごす	強制・命令・指示的な声かけ	オムツ・紙パンツの安易な使用	無理にトイレに連れて行く	子供を扱うような言い方	他利用者に聞こえるようなトイレ誘導、ことばかけ	失敗が周囲の人にわかるような言動	その他
実数	255	248	247	237	187	249	193	222	237	214	244	24
パーセント	100.0	97.3	96.9	92.9	73.3	97.6	75.7	87.1	92.9	83.9	95.7	9.4

## 9. 放尿への成功事例調査

### 1) 回答者属性

本調査の回答 280 件における回答者の年齢、性別、職名、役職、資格、所属事業種、勤続年数、総介護経験年数について割合を算出した。

#### (1) 年齢

有効回答 273 件における回答者の平均年齢は、42.0 歳 (SD11.7 歳) で最少年齢が 21 歳、最高年齢が 85 歳であった。(表 3-10-1-1 参照)

#### (2) 性別割合

有効回答 277 件中、回答者の性別割合は男性が 65 件 (23.5%)、女性が 212 件 (76.5%) と女性の割合が多かった。(表 3-10-1-2 参照)

#### (3) 職名の割合

有効回答 259 件中、回答者の職名の割合はケアマネージャーが 96 件 (37.1%)、ケアワーカーが 90 件 (34.7%)、看護師が 19 件 (7.3%)、相談員が 9 件 (3.5%) となっている。(表 3-10-1-3 参照)

#### (4) 役職の割合

有効回答 272 件中、回答者の役職の割合は、管理者が 94 件 (34.6%)、主任・リーダーが 74 件 (27.2%)、施設長が 22 件 (8.1%)、理事長が 4 件 (1.5%)、事務長が 1 件 (0.4%) で、77 件 (28.3%) が役職なしであった。(表 3-10-1-4 参照)

#### (5) 資格の所有割合

有効回答 264 件中、回答者の資格の所有割合は、介護福祉士が 167 件 (63.3%)、ケアマネージャーが 120 件 (45.5%)、ヘルパーが 83 件 (31.4%)、看護師 (准看護師) が 41 件 (15.5%)、社会福祉士が 8 件 (3.0%) であった。(表 3-10-1-5 参照)

#### (6) 所属事業種の割合

有効回答 276 件中、回答者の所属事業種は認知症対応型共同生活介護事業が 267 件 (96.7%)、小規模多機能型通所介護事業が 4 件 (1.4%)、介護老人福祉施設 (ユニット型) が 3 件 (1.1%)、介護老人福祉施設が 2 件 (0.7%) であった。(表 3-10-1-6 参照)

#### (7) 所属事業所での勤続年数

有効回答 275 件中、回答者の所属事業所での平均勤続年数は、4.0 年 (SD2.9 年) で最少が 0.1 年、最高が 20.0 年であった。(表 3-10-1-7 参照)

#### (8) 総介護経験年数

有効回答 273 件中、回答者の総介護経験の平均年数は、9.8 年 (SD6.5 年) で最少が 0.9 年、最高が 41.3 年であった。(表 3-10-1-8 参照)

## 2) 放尿の解決経験

本調査に回答を得た 280 件における放尿の解決経験、解決した高齢者に関する年齢、性別、認知症の原因疾患、身体機能の障害とADL、認知症の重症度、身体障害の重症度について割合を算出するとともに、介助や重症度などによるパターン化を行った。

### (1) 解決経験の有無

有効回答 273 件中、放尿で解決経験があるのは 245 件 (89.7%) であった。(表 3-10-2-1 参照)

### (2) 高齢者の状態

#### ① 年齢

解決経験がある 245 件のうち有効回答 228 件における高齢者の平均年齢は、82.3 歳 (SD7.1 歳) で最少年齢が 53 歳、最高年齢が 97 歳であった。その分布をみると、80 歳～84 歳が 81 件 (35.5%) で最も多い。(表 3-10-2-2 参照)

#### ② 性別

性別割合は、有効回答 239 件中、男性が 86 件 (36.0%)、女性が 153 件 (64.0%) と女性が多い。(表 3-10-2-3 参照)

#### ③ 認知症の原因疾患

認知症の原因疾患は、有効回答 236 件中、アルツハイマー型が 154 件 (65.3%)、脳血管疾患型が 48 件 (20.3%)、前頭側頭型が 1 件 (0.4%)、混合が 16 件 (6.8%) であった。(表 3-10-2-4 参照)

#### ④ 身体機能の障害とADL

##### 【機能障害部位】

機能障害部位は、有効回答 245 件中、下肢が 39 件 (15.9%)、体幹が 5 件 (2.0%)、首が 1 件 (0.4%) であり、残りの 200 件 (81.6%) が機能障害なし (=無回答) であった。(表 3-10-2-5 参照)

##### 【食事介助】

食事介助は、有効回答 233 件中、自立が 154 件 (66.1%)、一部介助が 74 件 (31.8%)、全介助が 5 件 (2.1%) であった。(表 3-10-2-6 参照)

##### 【移動】

移動は、有効回答 215 件中、短距離歩行自立が 124 件 (57.7%)、長距離歩行自立が 68 件 (31.6%)、杖自立が 22 件 (10.2%) であった。(表 3-10-2-7 参照)

##### 【排泄】

排泄は、有効回答 210 件中、身体介助必要が 93 件 (44.3%)、身体介助必要なしが 117 件 (55.7%) であった。(表 3-10-2-8 参照)

##### 【入浴】

入浴は、有効回答 235 件中、全介助が 40 件(17.0%)、移動介助が 35 件(14.9%)、洗身洗髪介助が 94 件 (40.0%)、その他一部介助が 57 件 (24.3%) であった。(表 3-10-2-9 参照)

⑤ 認知症の重症度

認知症の重症度は、有効回答 241 件中、ランク I が 7 件 (2.9%)、ランク II が 43 件 (17.8%)、ランク III が 113 件 (46.9%)、ランク IV が 70 件 (29.0%)、ランク V が 8 件 (3.3%) であった。(表 3-10-2-10 参照)

⑥ 身体障害の重症度

身体障害の重症度は、有効回答 233 件中、J ランクが 32 件 (13.7%)、A ランクが 169 件 (72.5%)、B ランクが 31 件 (13.3%)、C ランクが 1 件 (0.4%) であった。(表 3-10-2-11 参照)

⑦ 高齢者パターン

高齢者の状態を総合的にみてパターン化するために、性別、排泄介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目を対象にして潜在クラス分析(注 1)を行った結果 2 パターンが可能となった。

第 1 パターンは、排泄介助で身体介助必要 (66.1%) が多く、身体障害の重症度で B ランク (22.9%) と A ランク (68.1%) に集中し、認知症の重症度でランク IV (46.5%) とランク III (47.4%) が多いことから、これを「介助、中高程度重症度」と解釈した。このパターンには、有効回答 177 件のうち 97 件 (54.8%) が該当する。

第 2 パターンは、排泄介助で身体介助必要なし (84.9%) が多く、身体障害の重症度で A ランク (79.9%) と J ランク (16.6%) が多く、認知症の重症度でランク II (40.2%) とランク III (42.5%) が多いことから、これを「自立、軽中程度重症度」と解釈した。このパターンには 80 件 (45.2%) が該当する。(表 3-10-2-12 参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表 3-10-2-13 参照)

(注 1) 潜在クラス分析について

潜在クラス分析は、全体集団から異質な部分集団の混在を識別する分析モデルである。

高齢者全体集団でみたとき、性別、排泄介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目間に関連があれば異質な部分集団が混在していると考えて、項目間の関連がない部分集団(これをクラスと呼ぶ)を識別する。具体的には、同一クラス内では対象 4 項目間の関連がなくなるように識別し、項目間の関連がなくなることを局所独立と呼ぶ。

クラス数は任意であるが、多くすれば局所独立が高まる反面モデルとしての適切さが損なわれる。適切なモデル(クラス数)を評価する指標として AIC や BIC などの情報量規準が用いられ、その数値が低い方が良いとされている。なおここで示すクラス毎の事例件数は確率的に求めた件数である(注 2 参照)。分析ソフトは“LatentGOLD”を用いた。

### 3) 解決前と解決後の変化

放尿で解決経験がある 245 件における、解決前の状況と解決後の状況について割合を算出した。

#### (1) 解決前の状況

放尿が解決される前の状況としては、有効回答 245 件中、「居室のすみにおしっこをしていた」が 122 件 (49.8%)、「居室のゴミ箱やあちこちに放尿していた」が 114 件 (46.5%)、「廊下やリビングのすみで、時々放尿していた」が 62 件 (25.3%)、「夜間のみ窓・ドアを開けて放尿したり、ゴミ箱や洗面器などに放尿することがあった」が 38 件 (15.5%)、「屋外の庭でたまに放尿していた」が 22 件 (9.0%)、「衣装ケースの中に放尿していた」が 10 件 (4.1%) であった。(表 3-10-3-1 参照)

#### (2) 解決後の状況

放尿が解決された後の状況としては、有効回答 244 件中、「ゴミ箱や部屋のすみで放尿する回数が減った」が 117 件 (48.0%)、「自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった」が 71 件 (29.1%)、「失敗することもほとんどなくなった」が 43 件 (17.6%)、「自らおしっこに行きたいと訴えるようになった」と「夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった」が各 26 件 (10.7%) であった。(表 3-10-3-2 参照)

### 4) 放尿の解決方法

放尿で解決経験がある 245 件における、解決方法の割合を算出するとともに、解決方法をパターン化して、どのパターンがどのような結果に貢献するのか、さらにその貢献は高齢者パターンでどう異なるのか分析した。

#### (1) 解決方法の概況

放尿を解決する時に行った方法を具体的に記入してもらい、その内容を検討評価して 23 分類した。分類結果は、誘導の工夫に関するものが 8 分類、環境調整に関するものが 7 分類、その他が 8 分類であった。

有効回答 245 件のなかで多くあがったものは、「状態に応じた」が 163 件 (66.5%)、「排尿パターンに応じ」が 151 件 (61.6%)、「トイレ表示の工夫」が 105 件 (42.9%)、「誘導回数を増やす」が 86 件 (35.1%)、「繰り返し説明」が 60 件 (24.5%)、「夜間照明」が 59 件 (24.1%)、「ポータブルトイレ」が 51 件 (20.8%)、「トイレが見えるよう」が 38 件 (15.5%)、「トイレの位置調整」が 31 件 (12.7%)、「薬調整、受診」が 28 件 (11.4%) などであり、1 事例あたり平均 3.4 項目であった。

(表 3-10-4-1 参照)

### 5) 放尿の解決に役立った情報

上記の解決方法個々について、役立った情報をあげてもらった。

有効回答延べ 748 件の解決方法について、役立つ情報の割合を算出するとともに、情報をパターン化して、どの情報パターンがどの解決方法に関連するのか分析した。

#### (1) 役立つ情報の概況

有効回答 748 件のなかで多くあがったものは、「スタッフの声かけ内容・見守り方」が 264 件 (35.3%)、「排泄・排尿時間」が 203 件 (27.1%)、「排泄間隔」が 196 件 (26.2%)、「本人の気持ち、意志」が 179 件 (23.9%)、「排泄頻度」と「トイレの場所」が各 143 件 (19.1%)、「トイレの表示」が 113 件 (15.1%)、「尿意・排泄感覚」と「排泄場所」が各 112 件 (15.0%)、「放尿時の様子」が 89 件 (11.9%)、「スタッフとの関係」が 85 件 (11.4%) などであり、ひとつの解決方法当たり平均 3.2 項目あげられた。(表 3-10-5-1 参照)

#### (2) 役立つ情報の組み合わせパターン

ここでも上記の解決方法同様に、実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した。

その結果 15 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 2.2 項目の組み合わせであり、「トイレの表示」(64.7%) と「トイレの場所」(54.0%) を主として、「トイレの扉」(24.1%) などで構成されている。第 1 パターンの該当方法は延べ 105 件 (14.1%) である。

第 2 パターンは平均 3.7 項目の組み合わせであり、「排泄間隔」(93.0%) と「排泄頻度」(82.8%) を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(16.8%) などで構成されている。第 2 パターンの該当方法は延べ 104 件 (13.9%) である。

第 3 パターンは平均 3.4 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(83.2%) を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(58.9%)、「スタッフとの関係」(55.8%)、「気分」(36.5%) などで構成されている。第 3 パターンの該当方法は延べ 63 件 (8.4%) である。

第 4 パターンは平均 3.5 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(80.2%) を共通ベースとして、「スタッフとの関係」(43.2%)、「放尿時の様子」(48.9%)、「放尿時の表情」(33.9%) などで構成されている。第 4 パターンの該当方法は延べ 57 件 (7.6%) である。

第 5 パターンは平均 2.7 項目の組み合わせであり、「トイレの場所」(55.5%)、「排泄場所」(42.2%)、「排泄・排尿時間」(22.2%)、「歩行・下肢機能」(22.0%)、「本人の気持ち、意志」(21.4%) などで構成されている。第 5 パターンの該当方法は延べ 56 件 (7.5%) である。

第 6 パターンは平均 3.9 項目の組み合わせであり、「排泄・排尿時間」(73.0%)、「排泄間隔」(56.4%)、「尿意・排泄感覚」(47.1%)、「失禁有無」(41.9%)、「水分状態」(36.0%)、「本人の気持ち、意志」(28.0%) などで構成されている。第 6

パターンの該当方法は延べ 51 件 (6.8%) である。

第 7 パターンは平均 2.1 項目と最少の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(37.2%)、「本人の気持ち、意志」(34.3%)、「生活習慣(ここ数年)」(32.9%)、「トイレの表示」(32.0%) などで構成されている。第 7 パターンの該当方法は延べ 48 件 (6.4%) である。

第 8 パターンは平均 2.8 項目の組み合わせであり、「尿意・排泄感覚」(61.7%)、「本人の気持ち、意志」(59.8%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(55.0%) などで構成されている。第 8 パターンの該当方法は延べ 47 件 (6.3%) である。

第 9 パターンは平均 4.1 項目と最多の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(82.1%) と「トイレの場所」(80.2%) を共通ベースとして、「トイレの表示」(47.2%)、「スタッフとの関係」(34.3%)、「排泄場所」(32.8%)、「見当識」(31.2%) などで構成されている。第 9 パターンの該当方法は延べ 42 件 (5.6%) である。

第 10 パターンは平均 3.6 項目の組み合わせであり、「排泄間隔」(98.2%) を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(56.9%)、「排泄頻度」(40.2%)、「本人の気持ち、意志」(36.0%)、「尿意・排泄感覚」(33.1%) などで構成されている。第 10 パターンの該当方法は延べ 41 件 (5.5%) である。

第 11 パターンは平均 3.5 項目の組み合わせであり、「放尿時の様子」(99.3%) を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(53.2%)、「尿意・排泄感覚」(25.0%)、「排泄場所」(24.3%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(23.5%) などで構成されている。第 11 パターンの該当方法は延べ 35 件 (4.7%) である。

第 12 パターンは平均 3.3 項目の組み合わせであり、「服薬状況」(67.2%)、「現病・既往歴」(58.7%)、「睡眠時間・状況」(37.9%)、「水分状態」(34.2%)、「失禁有無」(26.8%) など“健康面”を主として構成されている。第 12 パターンの該当方法は延べ 31 件 (4.1%) である。

第 13 パターンは平均 3.2 項目の組み合わせであり、「排泄場所」(78.6%)、「生活状況(数日内)」(35.9%)、「排泄間隔」(33.3%)、「見当識」(32.5%) などで構成されている。第 13 パターンの該当方法は延べ 28 件 (3.7%) である。

第 14 パターンは平均 4.0 項目の組み合わせであり、「尿意・排泄感覚」(74.0%)、「睡眠時間・状況」(57.8%)、「水分状態」(38.3%)、「失禁有無」(35.0%)、「排泄頻度」(32.4%)、「排泄場所」(30.2%) などで構成されている。第 14 パターンの該当方法は延べ 25 件 (3.3%) である。

第 15 パターンは平均 3.5 項目の組み合わせであり、「生活状況(数日内)」(98.9%) を共通ベースとして、「排泄・排尿時間」(47.1%)、「排泄間隔」(42.3%)、「睡眠時間・状況」(31.0%) などで構成されている。第 15 パターンの該当方法は延べ 16 件 (2.1%) である。(表 3-10-5-2 参照)(潜在クラスモデルの評価経緯は表 3-10-5-3 参照)



### (3) 情報の組み合わせパターンが関連する解決方法

上記の情報組み合わせがどの解決方法に関連するか分析すると次の傾向である。

第2パターン（「排泄間隔」と「排泄頻度」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ）は、「排尿パターンに応じ」が63.7%、「誘導回数を増やす」が23.2%と多い。

第12パターン（「服薬状況」、「現病・既往歴」、「睡眠時間・状況」、「水分状態」、「失禁有無」など“健康面”を主として構成された平均3.3項目の組み合わせ）は、「薬調整、受診」が61.5%と多い。

第1パターン（「トイレの表示」と「トイレの場所」を主として、「トイレの扉」などで構成された平均2.2項目の組み合わせ）は、「トイレ表示の工夫」が50.1%、「夜間照明」が20.2%と多い。

第6パターン（「排泄・排尿時間」、「排泄間隔」、「尿意・排泄感覚」、「失禁有無」、「水分状態」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ）は、「排尿パターンに応じ」が47.5%、「誘導回数を増やす」が26.7%と多い。

第8パターン（「尿意・排泄感覚」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ）は、「状態に応じた」が45.8%と多い。

第11パターン（「放尿時の様子」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「尿意・排泄感覚」、「排泄場所」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ）は、「状態に応じた」が45.7%、「ポータブルトイレ」が15.2%と多い。

第3パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「スタッフとの関係」、「気分」などで構成された平均3.4項目の組み合わせ）は、「状態に応じた」が44.7%と多い。

第4パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「放尿時の様子」、「放尿時の表情」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ）は、「状態に応じた」が41.1%と多い。

第15パターン（「生活状況（数日内）」を共通ベースとして、「排泄・排尿時間」、「排泄間隔」、「睡眠時間・状況」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ）は、「排尿パターンに応じ」が34.8%、「状態に応じた」が30.4%と多い。

第14パターン（「尿意・排泄感覚」、「睡眠時間・状況」、「水分状態」、「失禁有無」、「排泄頻度」、「排泄場所」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ）は、「排尿パターンに応じ」が34.1%と多い。

第10パターン（「排泄間隔」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「排泄頻度」、「本人の気持ち、意志」、「尿意・排泄感覚」などで構成された平均3.6項目の組み合わせ）は、「状態に応じた」が32.4%、「誘導回数を増やす」が27.1%と多い。

第7パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」、「生活習慣（ここ数年）」、「トイレの表示」などで構成された平均2.1項目と最少の組み合わせ）は、「トイレ表示の工夫」が29.2%と多い。

第9パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「トイレの場所」を共通ベースとして、「トイレの表示」、「スタッフとの関係」、「排泄場所」、「見当識」などで構成された平均4.1項目と最多の組み合わせ）は、「繰り返し説明」が22.0%、「トイレ表示の工夫」が21.1%と多い。

第5パターン（「トイレの場所」、「排泄場所」、「排泄・排尿時間」、「歩行・下肢機能」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ）は、「ポータブルトイレ」が21.3%、「夜間照明」が15.0%と多い。（表3-10-5-4参照）

#### 6) 絶対にやってはいけない対応

絶対にやってはいけない対応としては、有効回答243件中、「怒鳴ったり、しかったり、叱責する」が241件（99.2%）、「拘束するような脱ぎにくい服にする」が230件（94.7%）、「他の利用者の中で、その事について話しをする」が218件（89.7%）、「放っておく」が216件（88.9%）、「無理やりトイレに連れて行く」が203件（83.5%）、「オムツにする」が195件（80.2%）となっている。（表3-10-6-1参照）

(表 3-10-1-1) 回答者の年齢

	有効回答数	24歳以下	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上
実数	273	12	23	59	36	26	37	33	33	14
パーセント	100.0	4.4	8.4	21.6	13.2	9.5	13.6	12.1	12.1	5.1

(平均年齢等)

有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
273	42.0	11.7	21	85

(表 3-10-1-2) 回答者の性別割合

	有効回答数	男	女
実数	277	65	212
パーセント	100.0	23.5	76.5

(表 3-10-1-3) 回答者の現在の職名

	有効回答数	ケアワーカー	相談員	ケアマネジャー	看護師	その他
実数	259	90	9	96	19	62
パーセント	100.0	34.7	3.5	37.1	7.3	23.9

(表 3-10-1-4) 回答者の役職

	有効回答数	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	理事長	なし
実数	272	22	94	74	1	4	77
パーセント	100.0	8.1	34.6	27.2	0.4	1.5	28.3

(表 3-10-1-5) 回答者の所有資格

	有効回答数	看護師(准看護師)	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネジャー	ヘルパー	その他
実数	264	41	167	8	120	83	21
パーセント	100.0	15.5	63.3	3.0	45.5	31.4	8.0

(表 3-10-1-6) 回答者の所属事業種

	有効回答数	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設(ユニット型)	認知症対応型共同生活介護事業	小規模多機能型通所介護事業	その他
実数	276	2	3	267	4	3
パーセント	100.0	0.7	1.1	96.7	1.4	1.1

(表 3-10-1-7) 回答者の所属事業所での勤続年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
275	4.0	2.9	0.1	20.0

(表3-10-1-8) 回答者の総介護経験年数

有効回答数	平均年	標準偏差年	最小値年	最大値年
273	9.8	6.5	0.9	41.3

(表3-10-2-1) 放尿の解決経験の有無

	有効回答数	ある	ない
実数	273	245	28
パーセント	100.0	89.7	10.3

(表3-10-2-2) 高齢者の年齢

	解決経験のある有効回答数	74歳以下	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
実数	228	27	32	81	56	32
パーセント	100.0	11.8	14.0	35.5	24.6	14.0

(平均年齢等)

解決経験のある有効回答数	平均歳	標準偏差歳	最小値歳	最大値歳
228	82.3	7.1	53	97

(表3-10-2-3) 高齢者の性別割合

	解決経験のある有効回答数	男	女
実数	239	86	153
パーセント	100.0	36.0	64.0

(表3-10-2-4) 認知症の原因疾患

	解決経験のある有効回答数	アルツハイマー型	脳血管疾患型	前頭側頭型	混合	その他
実数	236	154	48	1	16	17
パーセント	100.0	65.3	20.3	0.4	6.8	7.2

(表3-10-2-5) 機能障害部位

	解決経験のある人	首	上肢	下肢	体幹	無回答(=なし)
実数	245	1	0	39	5	200
パーセント	100.0	0.4	0.0	15.9	2.0	81.6

(表3-10-2-6) 食事介助

	解決経験のある有効回答数	全介助	一部介助	自立
実数	233	5	74	154
パーセント	100.0	2.1	31.8	66.1

(表 3-10-2-7) 移動

	解決経験のある 有効回答数	杖自立	短距離歩行 自立	長距離歩行 自立	その他(回答 者追記)
実数	215	22	124	68	1
パーセント	100.0	10.2	57.7	31.6	0.5

(表 3-10-2-8) 排泄

	解決経験のある 有効回答数	身体介助必 要	身体介助必 要なし
実数	210	93	117
パーセント	100.0	44.3	55.7

(表 3-10-2-9) 入浴

	解決経験のある 有効回答数	全介助	移動介助	洗身洗髪介 助	その他一部 介助	自立
実数	235	40	35	94	57	9
パーセント	100.0	17.0	14.9	40.0	24.3	3.8

(表 3-10-2-10) 認知症の重症度

	解決経験のある 有効回答数	I	II	III	IV	V
		何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	日常生活に支障を来たすような症状、行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	ランクIIの症状がときどき見られ、介護を必要とする(徘徊、失禁など)	ランクIIの症状が頻繁に見られ、常に介護を必要とする	著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ専門医療を要する
実数	241	7	43	113	70	8
パーセント	100.0	2.9	17.8	46.9	29.0	3.3

(表 3-10-2-11) 身体障害の重症度

	解決経験のある 有効回答数	J	A	B	C
		何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する	屋内の生活は概ね自立しているが、介助なしに外出しない	屋内の生活は何らかの介助を要し、日中もベット上での生活主体で座位を保つ	一日中ベットで過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する
実数	233	32	169	31	1
パーセント	100.0	13.7	72.5	13.3	0.4

(表3-10-2-12) 放尿高齢者のパターン  
(潜在クラス2クラスモデルのプロフィール)

(n=177)

項目	カテゴリー	全体	パターン1	パターン2
			介助、中高 程度重症度	自立、軽中 程度重症度
サイズ		1.000	0.546	0.454
性別	男	0.362	0.403	0.312
	女	0.638	0.597	0.688
排泄介助	身体介助必要	0.429	0.661	0.152
	身体介助必要なし	0.571	0.340	0.849
認知症の 重症度	I	0.028	0.001	0.061
	II	0.186	0.007	0.402
	III	0.452	0.474	0.425
	IV	0.294	0.465	0.088
	V	0.040	0.053	0.024
身体障害の 重症度	J	0.124	0.090	0.166
	A	0.735	0.681	0.799
	B	0.141	0.229	0.035
	C	0.012	0.000	0.036

(参考) 該当事例数 → (177) (97) (80)

(表3-10-2-13) 潜在クラスモデル評価 (放尿高齢者パターン)  
(情報量規準)

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	1330.9	1301.5
モデル2(クラス数2)	1361.9	1299.7
モデル3(クラス数3)	1402.4	1307.4
モデル4(クラス数4)	1445.1	1317.4

(表3-10-3-1) 解決前の状況

	解決経験のある有効回答数	衣装ケースの中に放尿していた	居室のすみにおしっこをしていた	居室のゴミ箱やあちこちに放尿していた	夜間のみ窓・ドアを開けて放尿したり、ゴミ箱や洗面器などに放尿することがあった	廊下やリビングのすみで、時々放尿していた	屋外の庭でたまに放尿していた	その他
実数	245	10	122	114	38	62	22	35
パーセント	100.0	4.1	49.8	46.5	15.5	25.3	9.0	14.3

(表3-10-3-2) 解決後の状況

	解決経験のある有効回答数	ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が増えた	失敗することもほとんどなくなった	自らおしっこに行きたいと訴えるようになった	夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった	自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった	その他
実数	244	117	43	26	26	71	34
パーセント	100.0	48.0	17.6	10.7	10.7	29.1	13.9

(表3-10-4-1) 放尿の解決方法

区分	code	解決時に行った方法	実数	%
有効回答数			245	100.0
誘導の工夫	101	排尿パターンに応じ	151	61.6
	102	誘導回数を増やす	86	35.1
	103	状態に応じた	163	66.5
	104	トイレが見えるよう	38	15.5
	105	トイレに誘導する	7	2.9
	107	本人だけにそっと	1	0.4
	108	同性誘導	1	0.4
	190	その他	3	1.2
	環境調整	201	ポータブルトイレ	51
202		トイレの位置調整	31	12.7
204		夜間照明	59	24.1
205		トイレ表示の工夫	105	42.9
208		目の届く居室や環境	6	2.4
209		排尿器の変更	3	1.2
290		その他	3	1.2
その他		301	薬調整、受診	28
	302	繰り返し説明	60	24.5
	303	放尿箇所の工夫	4	1.6
	304	放尿場所の遮断	12	4.9
	305	オムツパッドへの変更	3	1.2
	307	活動量の増加	1	0.4
	308	受容、会話増加	1	0.4
	390	その他	6	2.4

(参考)平均記入項目数 → 3.4

(表3-10-5-1) 放尿の解決に役立った情報

区分	code	解決に役立った情報	実数	%
計 (延解決方法件数)			748	100.0
認知能力	1	認知機能	55	7.4
	2	認知症の種類	3	0.4
	3	見当識	54	7.2
	4	認知症罹患期間	1	0.1
健康面	5	服薬状況	33	4.4
	6	現病・既往歴	28	3.7
	7	失禁有無	54	7.2
	8	水分状態	49	6.6
	9	便の状態	14	1.9
	10	睡眠時間・状況	58	7.8
能力・機能	12	歩行・下肢機能	45	6.0
	13	視覚機能	23	3.1
	14	言語能力	4	0.5
	16	尿意・排泄感覚	112	15.0
心理面	17	気分	52	7.0
	18	本人の気持ち、意志	179	23.9
排泄行動	19	排泄・排尿時間	203	27.1
	20	排泄間隔	196	26.2
	21	排泄頻度	143	19.1
	22	排泄場所	112	15.0
	23	放尿が始まった時期	22	2.9
	24	排泄量	27	3.6
放尿時の状態	25	放尿時の様子	89	11.9
	26	放尿時の表情	30	4.0
生活習慣	27	生活状況(数日内)	50	6.7
	28	生活習慣(ここ数年)	45	6.0
	29	生活歴(幼少期から)	18	2.4
環境	30	トイレの場所	143	19.1
	31	トイレの表示	113	15.1
	32	トイレの形・材質・色	12	1.6
	33	トイレ内の室温	8	1.1
	34	トイレ内の雰囲気	20	2.7
	35	トイレの扉	27	3.6
人間関係	36	他の入居者との関係	23	3.1
	37	スタッフとの関係	85	11.4
	38	家族関係	11	1.5
介護者の対応	39	スタッフの声かけ内容・見守り方	264	35.3
(参考)平均記入項目数 →			3.2	



(表 3-10-5-2) 放尿の解決に役立った情報の組み合わせパターン (潜在クラス 15 クラスモデルのプロフィール)

(n=748)

区分	code	解決に役立った情報 クラスサイズ	全体															
			パターン1 「トイレの表示」と「トイレの場所」を主として、「トイレの扉」などで構成された平均2項目の組み合わせ	パターン2 「排尿開始」と「排尿感覚」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	パターン3 「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「本人の気持ち」などで構成された平均3.4項目の組み合わせ	パターン4 「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	パターン5 「トイレの場所」・「排尿開始」・「歩行・下駄機能」・「本人の気持ち」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ	パターン6 「排尿・排尿時間」・「排尿場所」・「排尿開始」・「尿意・排尿感覚」・「水筒」・「分岐器」・「本人の気持ち」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ	パターン7 「スタッフの声かけ内容・見守り方」・「本人の気持ち」・「生活習慣(二週間)」・「トイレの表示」などで構成された平均2.1項目と最少の組み合わせ	パターン8 「尿意・排尿感覚」・「本人の気持ち」・「スタッフの声かけ内容」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	パターン9 「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「トイレの場所」を共通ベースとして、「トイレの表示」・「スタッフとの関係」・「排尿開始」・「尿意・排尿感覚」などで構成された平均3.8項目と最多の組み合わせ	パターン10 「排尿開始」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」・「排尿開始」・「尿意・排尿感覚」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	パターン11 「排尿開始の様子を共通ベースとして、「本人の気持ち」・「排尿開始」・「尿意・排尿感覚」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	パターン12 「排尿開始の様子を共通ベースとして、「本人の気持ち」・「排尿開始」・「尿意・排尿感覚」などで構成された平均3.3項目の組み合わせ	パターン13 「排尿開始の様子を共通ベースとして、「本人の気持ち」・「排尿開始」・「尿意・排尿感覚」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	パターン14 「排尿開始の様子を共通ベースとして、「本人の気持ち」・「排尿開始」・「尿意・排尿感覚」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	パターン15 「生活状況(数日内)」を共通ベースとして、「排尿開始」・「尿意・排尿感覚」・「本人の気持ち」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	
認知能力	1	認知機能	0.074	0.036	0.000	0.139	0.000	0.198	0.098	0.170	0.064	0.137	0.049	0.029	0.173	0.000	0.048	0.000
	2	認知症の種類	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.108	0.000	0.000
	3	見当識	0.072	0.099	0.000	0.023	0.091	0.000	0.000	0.001	0.092	0.312	0.048	0.085	0.000	0.325	0.228	0.000
	4	認知症罹患期間	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.033	0.000	0.000	0.000
健康面	5	服薬状況	0.044	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.021	0.000	0.116	0.024	0.049	0.000	0.672	0.000	0.000	0.185
	6	誤嚥・嚥下性	0.037	0.000	0.038	0.000	0.000	0.000	0.020	0.000	0.000	0.000	0.000	0.144	0.587	0.000	0.000	0.000
	7	失禁有無	0.072	0.000	0.000	0.075	0.000	0.115	0.419	0.000	0.068	0.000	0.005	0.001	0.288	0.000	0.350	0.071
	8	水分状態	0.066	0.000	0.016	0.112	0.000	0.000	0.380	0.038	0.000	0.000	0.000	0.000	0.342	0.000	0.383	0.000
	9	便の状態	0.019	0.000	0.005	0.027	0.000	0.000	0.033	0.000	0.000	0.000	0.028	0.057	0.065	0.000	0.116	0.123
	10	睡眠時間・状況	0.078	0.025	0.047	0.001	0.000	0.119	0.030	0.000	0.066	0.023	0.052	0.143	0.379	0.000	0.578	0.310
能力・機能	12	歩行・下駄機能	0.060	0.000	0.000	0.022	0.000	0.220	0.000	0.000	0.093	0.152	0.148	0.083	0.074	0.000	0.254	0.189
	13	視覚機能	0.031	0.065	0.000	0.000	0.000	0.023	0.000	0.209	0.000	0.064	0.000	0.025	0.000	0.046	0.000	0.000
	14	言語能力	0.005	0.000	0.000	0.000	0.000	0.018	0.000	0.000	0.021	0.000	0.025	0.029	0.000	0.000	0.000	0.000
	15	尿意・排尿感覚	0.150	0.025	0.073	0.105	0.027	0.000	0.471	0.001	0.617	0.001	0.331	0.250	0.000	0.001	0.740	0.001
心理面	17	気分	0.070	0.000	0.000	0.365	0.022	0.000	0.077	0.000	0.189	0.043	0.099	0.174	0.034	0.000	0.000	0.123
	18	本人の気持ち・意志	0.239	0.013	0.051	0.589	0.179	0.214	0.280	0.343	0.598	0.277	0.360	0.532	0.172	0.119	0.001	0.063
排泄行動	19	排尿・排尿時間	0.271	0.000	0.982	0.147	0.192	0.222	0.730	0.001	0.001	0.101	0.224	0.001	0.073	0.195	0.084	0.471
	20	排泄開始	0.262	0.000	0.930	0.024	0.101	0.001	0.584	0.001	0.002	0.001	0.982	0.001	0.001	0.333	0.249	0.423
	21	排泄頻度	0.191	0.008	0.828	0.020	0.000	0.085	0.237	0.001	0.000	0.000	0.402	0.029	0.143	0.270	0.324	0.001
	22	排泄場所	0.150	0.055	0.156	0.000	0.101	0.422	0.000	0.001	0.148	0.328	0.001	0.243	0.069	0.786	0.302	0.001
	23	放尿が始まった時期	0.029	0.000	0.037	0.000	0.091	0.079	0.059	0.000	0.026	0.000	0.000	0.000	0.000	0.121	0.000	0.062
	24	排泄量	0.036	0.000	0.155	0.000	0.000	0.000	0.102	0.000	0.022	0.000	0.031	0.000	0.033	0.039	0.050	0.000
放尿時の状態	25	放尿時の様子	0.119	0.011	0.080	0.000	0.489	0.053	0.177	0.000	0.001	0.031	0.148	0.993	0.000	0.001	0.000	0.001
	26	放尿時の表情	0.040	0.000	0.000	0.024	0.339	0.000	0.020	0.000	0.023	0.000	0.000	0.178	0.000	0.000	0.000	0.060
生活習慣	27	生活状況(数日内)	0.067	0.000	0.085	0.092	0.028	0.000	0.022	0.082	0.013	0.075	0.000	0.000	0.000	0.359	0.042	0.989
	28	生活習慣(二週間)	0.060	0.000	0.029	0.029	0.215	0.102	0.000	0.329	0.028	0.000	0.000	0.033	0.132	0.000	0.000	0.000
	29	生活歴(幼少期から)	0.024	0.000	0.019	0.000	0.074	0.020	0.000	0.163	0.062	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
環境	30	トイレの場所	0.191	0.540	0.037	0.000	0.046	0.555	0.090	0.000	0.025	0.802	0.001	0.128	0.000	0.101	0.049	0.055
	31	トイレの表示	0.151	0.647	0.028	0.000	0.022	0.001	0.000	0.320	0.000	0.472	0.050	0.000	0.000	0.091	0.043	0.001
	32	トイレの形・材質・色	0.016	0.054	0.010	0.021	0.000	0.071	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	33	トイレ内の室温	0.011	0.057	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.048	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	34	トイレ内の雰囲気	0.027	0.160	0.000	0.000	0.018	0.000	0.000	0.022	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.041	0.000
	35	トイレの音	0.036	0.241	0.000	0.024	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
人間関係	36	他の入居者との関係	0.031	0.000	0.000	0.133	0.150	0.000	0.000	0.039	0.000	0.029	0.000	0.087	0.000	0.000	0.000	0.000
	37	スタッフとの関係	0.114	0.012	0.000	0.558	0.432	0.000	0.048	0.000	0.000	0.343	0.000	0.030	0.000	0.000	0.147	0.155
	38	家族関係	0.015	0.027	0.000	0.018	0.124	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
介護者の対応	39	スタッフの声かけ内容・見守り方	0.353	0.133	0.168	0.832	0.802	0.164	0.057	0.372	0.550	0.821	0.569	0.235	0.046	0.276	0.001	0.258

(参考) 平均項目数 → 3.2 2.2 3.7 3.4 3.5 2.7 3.9 2.1 2.8 4.1 3.8 3.5 3.3 3.2 4.0 3.5  
 該当事例数 → (748) (105) (104) (83) (57) (56) (51) (48) (47) (42) (41) (35) (31) (28) (25) (16)

(注) 該当事例数は、各パターンのサイズ(確率)から算定して整数表示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が同値となることある。

(表3-10-5-3) 潜在クラスモデル評価 (放尿の解決に役立った情報の組み合わせパターン) (情報量規準など)

モデル(クラス数)	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1(クラス数1)	14330.8	14160.0	0.0000	0.000	1.000	1.000
モデル2(クラス数2)	13781.9	13435.6	0.0477	0.862	0.803	0.838
モデル3(クラス数3)	13634.3	13112.5	0.0947	0.830	0.786	0.790
モデル4(クラス数4)	13647.1	12949.9	0.1232	0.824	0.771	0.763
モデル5(クラス数5)	13791.9	12919.2	0.1531	0.801	0.761	0.731
モデル6(クラス数6)	13931.6	12883.4	0.1611	0.792	0.767	0.724
モデル7(クラス数7)	14120.3	12896.7	0.1586	0.806	0.787	0.736
モデル8(クラス数8)	14287.4	12888.3	0.1730	0.786	0.775	0.718
モデル9(クラス数9)	14462.4	12887.8	0.1712	0.796	0.793	0.729
モデル10(クラス数10)	14661.9	12911.9	0.1686	0.795	0.795	0.732
モデル11(クラス数11)	14849.8	12924.3	0.1581	0.814	0.803	0.741
モデル12(クラス数12)	15047.2	12946.2	0.1642	0.804	0.810	0.737
モデル13(クラス数13)	15259.7	12983.3	0.1805	0.786	0.799	0.723
モデル14(クラス数14)	15447.8	12996.0	0.1832	0.784	0.806	0.722
モデル15(クラス数15)	15651.9	13024.6	0.1644	0.809	0.828	0.750
モデル16(クラス数16)	15909.8	13107.0	0.1789	0.789	0.818	0.729
モデル17(クラス数17)	16038.9	13060.6	0.1764	0.798	0.828	0.737
モデル18(クラス数18)	16254.5	13100.8	0.1692	0.807	0.833	0.742
モデル19(クラス数19)	16490.7	13161.6	0.1730	0.797	0.833	0.740
モデル20(クラス数20)	16689.5	13184.9	0.1830	0.796	0.825	0.726

(表3-10-5-4) 放尿の解決に役立った情報の組み合わせパターンと解決方法の関連

区分	code	解決方法	情報の組み合わせパターン															
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	
合計			748	106	105	63	57	56	51	48	47	41	41	35	31	28	25	16
誤作動	101	誤作動パターンに 対応	19.5	1.1	63.7	9.5	10.1	8.4	47.5	0.9	11.8	1.9	24.4	0.7	12.0	10.3	34.1	34.8
102	誤作動回数増やす		11.0	0.8	23.2	8.8	9.1	8.0	26.7	3.9	5.0	4.0	27.1	1.9	10.2	10.1	10.7	11.5
103	状態に応じた		20.2	1.5	6.9	44.7	41.1	7.4	15.2	14.8	45.8	15.4	32.4	45.7	0.7	21.5	14.5	30.0
104	トイレが見えるよう		4.7	13.3	0.0	7.1	0.5	3.8	2.0	9.4	1.9	8.3	0.0	5.7	0.3	5.7	0.1	3.4
105	トイレに誘導する		0.8	0.1	0.0	1.8	0.6	1.0	0.0	2.5	0.9	0.2	2.1	2.9	0.0	0.9	0.0	0.0
107	本人だけにそっと		0.1	0.0	0.0	1.2	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
108	同性誘導		0.1	0.0	0.0	1.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
190	その他		0.1	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
環境調整	201	ポータブルトイレ	6.0	3.5	2.8	2.5	10.3	21.3	0.3	6.0	3.8	4.2	0.1	15.2	4.8	10.1	8.2	4.9
202	トイレの位置調整		3.7	2.8	2.3	0.8	1.4	9.2	3.3	6.5	2.9	7.6	0.6	7.9	0.2	6.4	8.3	0.0
204	夜間照明		6.8	20.2	0.8	0.7	1.8	15.0	0.1	9.0	3.4	13.8	0.1	7.0	0.1	12.9	4.6	0.0
205	トイレ表示の工夫		12.2	50.1	0.0	4.1	2.6	7.4	0.1	29.2	2.3	21.1	0.1	2.5	6.8	5.4	4.1	3.4
206	目の届く位置や環境		0.8	0.0	0.0	3.2	0.6	0.0	0.1	1.4	2.1	0.0	4.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
209	センサーの変更		0.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0
290	その他		0.4	0.1	0.0	0.3	0.4	0.6	0.0	0.5	1.8	0.7	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0
その他	301	誤誘導、受診	3.5	0.2	0.0	0.0	1.6	1.7	1.9	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	61.5	0.0	7.2	6.3
302	繰り返し説明		6.8	5.5	0.1	11.0	11.6	12.0	2.5	7.2	9.5	22.0	8.4	0.1	10.2	0.6	0.7	0.0
303	放尿場所の遮断		0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.0	3.6	0.4	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0
304	放尿場所の遮断		1.3	0.3	0.0	0.3	2.7	3.3	0.1	3.1	3.2	0.6	0.0	5.0	0.3	3.8	0.1	0.0
305	オムツパッドへの変更		0.3	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	2.9	0.2	0.0	4.7	
307	活動量の増加		0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.9	0.0	
308	受診、金額増加		0.1	0.0	0.0	1.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
390	その他		0.7	0.4	0.0	0.8	5.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	

(注) 潜在クラス確率による集計

(表3-10-6-1) 絶対にやってはいけない対応

	有効回答数	怒鳴ったり、 しかったり、 叱責する	放っておく	オムツにす る	拘束するよう な脱ぎにくい 服にする	無理やりトイ レに連れて 行く	他の利用者 の前で、その 事について 話しをする	その他
実数	243	241	216	195	230	203	218	24
パーセント	100.0	99.2	88.9	80.2	94.7	83.5	89.7	9.9

## D. 結論

### 1. 食事行為の課題解決に関する分析

#### 1) 有効情報

食事行為に関する課題に共通する傾向は、介護者の対応状況や他者との関係性や職員との関係性など人間関係が重要視されており、次いで嗜好、興味、満腹感など心理的な側面、表情や行動など本人の様子、周囲の刺激など環境面に関する情報の選択率が高い傾向にあった。逆に、健康面や認知機能、口腔機能等に関する情報の選択率はやや低い傾向であることが明らかとなった。つまり、健康状態や認知機能は課題の原因になっている可能性が高いが、対応やケアにとって直接的に有効であると判断される傾向が低い事を示している。逆に、実際の対応やケアの実行時に有効であるのは、介護者が現在行っている対応やケアを、高齢者の状態や心理を確認しながら評価している傾向が推測される。そして、本人の意図や興味、関心を現在の様子や過去の生活歴から推測し、本人の気分や行為に応じた臨機応変な対応へと結びつける事が課題解決の重要な視点であることが示唆されたといえよう。さらには、認知機能や口腔機能、身体機能等の選択率があまり高くない理由としては、有効情報の種類が多く、アセスメント視点の多様性によって選択率が分散された可能性が推測される。しかし、心理的な側面や他者との関係性に関する情報選択率の高さは、多くの解決方法において有効な情報であることを意味しているため、いわば方法に特定されない情報であると考えられる。

食事拒否課題の特徴は体調を有効な情報とする割合が高く、過剰要求と異なって、食事を食べない状況について体調不良が原因であると推測されている傾向が認められている。食事中断課題における特徴的な傾向は、周囲の刺激や席の位置などを有効情報と選択する割合が特に高く、環境からの刺激や食事環境を食事中断の原因と推測する傾向が高い事が示唆された。

食事行為に関する課題全体に関する有効情報の傾向としては、認知機能や健康に関する情報は、課題を解決するための有効な情報としては最重要視されない傾向にある事が明らかとなった。認知機能や健康状態は、食事過剰要求や食事の拒否や中断といった行為の原因の一端になっていることは容易に推測されることであるが、それらの情報を利用した対応は短期的な対応よりも長期的な対応や取組みにとって有効な情報である可能性が高いのではないだろうか。つまり、課題を解決するためにすぐに役立つのは、職員との関係性や、高齢者本人の表情や様子、心理、興味や、周囲の刺激や席位置など環境面、食事自体の方法に関する情報であり、これらはいわば短期的な取組みに役立つ情報群と推測される。過剰要求課題と中断、拒否課題における有効情報の差異については、食事を摂取しない理由としてより健康状態や身体状況を原因として推測する傾向が高いことが明らかとなった。さらに、途中で食事をやめてしまう原因としては、環境刺激の問題が特に重要視されている事が

示唆された。

これらの結果から、食事行為に関する課題解決に有効なアセスメント視点では、長期的な対応視点として認知機能や身体状況を確認しつつ、高齢者本人の気分や興味、関心を評価し、それらの状況に応じて、職員の声かけや介護方法を見直し、食事の内容や食材の質、食器、食事方法や、席位置、食事メンバー、周囲の刺激などを評価し調整している傾向が伺える。

## 2) 解決方法

食事過剰要求、拒否、中断に対する解決方法は、声かけや誘導の工夫、環境の調整、食事方法の工夫、活動方法の工夫、その他に分類された。特に声かけや誘導、環境調整、食事の工夫については実施率が高いが、ほぼすべての方法の実施率が高く特定の方法が解決に有効であるのではなく、これらの方法が組み合わされて実施されており、課題を解決するための方法は、複数の方法による総合的な効果によることが推測される。3課題の共通傾向については、声かけも誘導も本人の状態を評価しながら本人のペースや状態に応じた方法が効果的であると推察される。特に食事の工夫は、嗜好に応じた献立、食材の質、量でなされており、認知機能を考慮した食器の工夫も特徴であった。環境の調整については周囲の明るさや、音、食事人数、食事メンバー、席の位置など他者との関係性も考慮した人的な環境調整も効果的な方法であることが示唆された。食事行為特有の方法として、生活リズム調整や体調の調整を考慮した活動の工夫も特徴であった。その他としては、水分補給や排泄調整、義歯調整など健康や身体状況に応じた解決方法もみられたが実施率があまり高くなく、これらの方法は長期的な取り組みとして実施される傾向が推測される。

## 3) 有効情報と解決方法の組み合わせ

食事行為に関する課題解決に有効な情報について、回答傾向から選択の組み合わせを分析し、重複する組み合わせを調整した結果、食事過剰要求課題13パターン、食事拒否課題15パターン、食事中断課題15のパターンに分類された(表3-11-1-1、表3-11-1-2、表3-11-1-3参照)。さらに身体状況、心理、認知機能、食事状況、人的・物理的環境、その他の6つに分類した。有効情報と解決方法の組み合わせの傾向は、6つの情報分類すべてについて、声かけ・誘導の工夫、環境調整、食事の工夫、活動の工夫等が組み合わせて実施されており、複数の方法の総合的な効果によって課題が解決されたことが示唆された。有効な情報の種類によって、特定の解決方法が単一に実施され課題解決に至ったのではなく、複数の方法が組み合わされてそれらの相乗効果によって解決に結実したと推測される。そして、有効情報の種類によらず実施される方法はほぼ共通している傾向が示唆された。有効情報をアセスメント視点と解釈した場合に、解決方法とアセスメント視点が直接的に関連していたのは、水分補給、口腔状態と義歯調整や食物形態の変更、人間関係と席位置の変更、人間関係とコミュニケーションの増加、食事の嗜好と献立の